

# ティーチング・ポートフォリオ

## 第1稿

大学名：東洋食品工業短期大学

所属：分析グループ

名前：浦 千尋

作成日：2025年3月31日

### 【ティーチング・ポートフォリオ作成の目的】

- ① 本学の教育目標(建学の精神)、自分自身の研究・教育活動を鑑み自分の教育理念を文言化する
- ② 教育方法の改善必要箇所を自己省察し、改善に役立てる
- ③ 自分自身の教育理念や教育方法に基づいた行動目標を立案する
- ④ 教育方法に関する知識・経験を文書記録化し共有する

### 【東洋食品工業短期大学 建学の精神】

心正しく、誠実と勤労の精神を尊び、包装食品工学に関する理論と技術をあわせ修めた包装食品業界の担い手を育成する

## I. 教育の責任

### 【担当科目とその簡単な内容説明】 \*主担当科目

科目名 データサイエンス・A I *	配当年次 1年	種別 必修
概要：パソコン端末の基本的な操作方法および、情報を取り扱う際のセキュリティやモラル、データの取り扱いについて学ぶ。Microsoft365 の操作方法を学び、関心がある内容でアンケートの作成、実施、集計を行い、結果をまとめて報告書を作成する。PowerPoint を使用した自己紹介を作成し、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。		

科目名 食品法規 II *	配当年次 2年	種別 選択
概要：食品の製造・販売に携わる者として常に変化し続ける食品表示制度に関する最新の知識を身につける。食品表示検定の受験を想定し、中級試験合格レベルの練習問題を繰り返し解き、知識の定着を行っている。受験に役立つよう、Microsoft Forms を用いてランダムチェックテストを作成している。		

科目名 食品分析実験 I (3 教員によるオムニバス)	配当年次 2年	種別 必修
概要：食品の一般成分である水分、灰分、タンパク質、脂質、ビタミンなどの定性・定量分析をおこなう。各栄養素の定量分析の手法および原理を学び、基本的な分析器具や機器の取り扱いについても修得する。		

科目名 食品分析実験 II (3 教員によるオムニバス)	配当年次 2年	種別 選択
概要：食品の保管中におこる成分の変化を明らかにするための手法を学ぶ。主に分析機器での測定をおこない、操作方法や解析方法を修得する。座学の分析学 II で学んだ分析方法などを用いて、グループで企業の問題解決に取り組み、結果の報告・共有を行う。		

科目名 飲料製造実習 (4 教員によるオムニバス)	配当年次 2年	種別 選択
概要：工場が必要とされる基礎知識や殺菌技術を学ぶ。市販飲料の成分分析や官能評価を行い、製品の品質評価を行う。また、グループに分かれてオリジナル飲料の開発に取り組み、実際に製造を行い評価する。		

科目名 卒業課題研究*	配当年次 2年	種別 必修
概要：きのこ類を中心とした機能性成分の研究を行う。		

## 【その他の教育関連業務】委員会活動、担任業務など

### 1. FD 専門委員会

学校全体の教育内容・教育方針の改善啓発。授業評価アンケートの実施と集計、結果の解析を行い、授業担当者にフィードバックをする。また学内 FD 講習会を年に 1 度実施し、実施に向けた講師の招聘などを行う。

### 2. 情報セキュリティ委員会

学校全体のセキュリティマネジメントを主な活動とし、学生や教職員の ICT サポートを行う。本学は情報システム部のような部署を持っていないため、学生のアカウント管理や更新作業、情報セキュリティに関する研修会への参加、教職員へ向けたセキュリティ教育研修の実施などを行っている。

### 3. 品質管理のためのデータサイエンスプロジェクト

文部科学省より発表されている数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の承認を受け、運営と自己点検を実施している。実際の工場で使用されている検査機などの生データを授業資料として用い、現場レベルの課題解決に繋げる。

### 4. バスケットボール部

授業期間中に週 1 回程度の練習を行い、対外試合にも参加している。授業では関わりが少なく、学年を跨いだ交流にも貢献している。

## II. 教育理念

私が大切にしている教育の理念は 3 つある。「課題発見力・問題解決能力を向上させる」「学生に寄り添う」「規律を守らせる」である。これは私の経験が大きく影響している。私は大学卒業後に母校で実習助手として教育に携わってきた。教員としての採用ではなかったため、単位認定を行う事は出来なかったが、授業運営や卒業研究など、学生指導に深く関わっていたため、今後はサポートする立場ではなく自身が主体となり指導したいという気持ちが増していった。

しかし、私は母校での授業運営しか知らなかったもので、他大学ではどのように授業が行われているのかを知らず、情報量が欠けていると感じた。そんな時にご縁があり、勤務校を変えてみることにした。行動を起こすということは、目的意識が必要であり、きっかけが無ければ難しいと感じている。そこで、私自身の問題解決のための方針は「まず自分の環境をそこに置いてみる。」である。業務体系は母校と大きく変わり、まずは環境の変化に慣れることが大変ではあったが、関わる先生や業務の幅も大きく広がり、知見を広め広められたように感じた。次に研究への関心が高まった。しかし、生憎私は真面目な学生ではなかった上

に、もとより怠けがちな性格、物事を後回しにしがちであった。当時は学部卒業後に大学院（修士課程）へ進学しておらず、研究業績が今のままでは不十分であると感じ始めた。そのため、まずは大学院への受験を決め、周囲に公言をし始めた。無理にでも一歩動き始めると、動かざるを得ない環境をつくり、物事を進める事が出来た。思えば、幼少期からいろいろな経験がしたいと感じれば多種多様な習い事をしてみたり、自分に体力が無いと感じたらマラソン大会に登録してみたりと、思い当たる節があったかもしれない。

教育に関しても、自身を観察してみて自分に足りていない点、改善すべき問題点を見出し、「まず、やってみる」精神を学生に持ってもらいたい。有難いことに昨今はインターネットやSNSから情報が容易に得られ、何かを始めることにお金がかからなくなってきている。十分に計画を立てようとする、「自分には経験が無いので計画を立てづらい」「計画倒れになる」という状況に陥り、先に進めなくなってしまう。このような状況を避けるためにも、まずは成功でも失敗でも良いので経験を積むために行動を起こす力、発言する勇気を身につけて欲しい。その結果の振り返り・目標の見直しを繰り返して、課題発見力・問題解決力を身につけて欲しい。

次に、私の学部生時代の恩師は、お忙しい方であったが、いつでも私の相談や質問に対して優先して時間を作ってくださった。「こんな内容で質問しても良いのだろうか」「調べてはいるものの、なかなか内容を理解する事ができない」と、悩んでしまい物事が進まない時も、この方であれば些細なことであっても話を聞いてくれるという気持ちになった。実際もそうであったし、専門分野外の内容であったとしても分からないと突き返すのではなく、一緒に調べて内容を理解しながら教えてくださった。私は恩師のおかげで「助けを求める勇気」が付いたように感じた。ただし、これは何でもかんでも相手に頼るという事ではない。相手を思いやる気持ちが必ず必要で、私も学生から信頼してもらえるよう、真摯に向き合うよう心掛けている。実際に恩師から「あなたの周りは自分が思っている以上に助けてくれる人たちがいるよ。」と言って頂き、不安ばかりだった気持ちがとても軽くなったのを覚えている。自身が指導している学生たちにも、勉強内容だけではなく、相手を思いやる気持ちを持ってもらいたい。

最後に、短期大学生は2年間というとても短い在籍期間で社会に出ていくことになる。一般的な4年制大学の学生と比較して時間割は選択性も低く、とても過密なものとなっている。その短い在籍期間の中でさらに社会人基礎力を身につけていかなければならない。社会人1年目に何か大きな事が出来ることは期待されずとも、挨拶や期日を守るなどの基礎的な力を身につけて欲しい。これは単に「規律を守る」という事だけではなく、相手からの信頼を得る事にも繋がっている。学生や社会人でも、つつい人は楽な方へと流されてしまう。しかし、そうなりそうな時こそ自分を律する気持ちを強く持ちつつ、厳しく律するだけでは辛くなってしまうので、自身をコントロールする力を身につけていって欲しい。

### Ⅲ. 教育の方法論

#### 1. 授業教材について

【方法】授業で使用したスライドなどは Microsoft Teams を使用して必ず配信し、いつでも確認出来る状態にしておく。授業時間では十分に理解出来なかった内容を復習するために資料を活用してもらおう。外国人留学生が在籍する学年もあり、出来るだけ図表を挿れたシンプルな資料とし、内容理解のための資料の一部としている。

【成果】電子媒体でも配布資料を準備することにより、学生の勉強方法の幅を広げ、また受講方法の自由度を広げている。また留学生は資料の翻訳を行うため、電子データで配信することにより手間が省け、授業効率向上に繋がっている。

#### 2. プレゼンテーションについて

【方法】1年生前期開講科目であるため、自己紹介を兼ねて Microsoft PowerPoint を使用した自己プレゼンテーションを行っている。プレゼンテーション資料を作成する前準備として、ペアで KJ 法を利用したブレインストーミングを行い、意見を出し合い纏め、文章化したうえでまずはペアに発表を行う。質問・改善点などをアドバイスし合ったうえで、スライドを作成してクラス全員の前で発表を行う。聞き手は発表内容・スライドの構成や見栄え・発表時の姿勢について評価を行い、発表者に対してフィードバックを行う。

【成果】事前に他者評価を行うことを伝えることで、学生は評価項目を意識した資料作りとプレゼンテーションを行う事が出来た。また、ブレインストーミングで得られた多くの情報の中から伝えるべき情報を取捨選択・グルーピングし、聞き手に伝えるための工夫を考える事が出来た。

#### 3. アンケート作成について

【方法】「データサイエンス・A I」では授業の終盤で総合演習として Microsoft365 を活用し、自身が興味を持った内容でアンケートを作成・結果の集計・解析・報告を行っている。

【成果】その他の授業や、特に2年生で履修する卒業課題研究で必要となる様々なデータの扱い方・重要性についての基礎を学ぶことが出来た。自由にアンケートを作成することで、自身の知りたい事やアイデアを他者に伝える方法を考えることができ、報告書作成の際には、いちから自分で文章を作りあげ、読み手にとって読みやすい文章や構成を考えることが出来た。これらも集まったデータの中から、伝えるべき情報を拾い上げ、伝える力を養う事が出来た。

#### 4. 授業進行について

【方法】練習問題などはスクリーンに投影しながら学生と一緒に作業を進める。学生は先々に進めても構わないが、基本的には操作の遅い学生にスピードを合わせて進め、学生全体のボトムアップを図る。補助の先生に参加していただき、一人では対応しきれないサポートを行っている。進捗の早い学生に対しては別途追加課題を準備しておき、提出されることで追加点を与えている。

【成果】最初はなかなか自分から手を挙げて質問が出来ず、教員側から声を掛けられることを待っていた学生も、積極的に自分から手を挙げて質問が出来るようになった。また、追加課題を準備することで、最低限の課題提出に止まらず、意欲的に取り組む姿が見受けられた。

### IV. 教育素材の作成

1. シラバス：I に示した科目についてシラバスを作成しており、シラバスは学生配布の「カリキュラム案内」に記載済なので、ここでの提示は割愛する。
2. 教科書：講義・実習、社会人育成講習会や外国人講習会用の教科書を作成。
3. 独自教材：授業スライドを復習用に電子データで共有している。

## V. 教育の成果

授業評価アンケートの実施による学生からの評価を受けており、主担等科目について評価の概要を以下に示す。卒業課題研究については履修者が少数のため割愛する。

アンケートは10の設問項目に対して5（強くそう思う）、4（そう思う）、3（どちらともいえない）、2（そうは思わない）、1（全くそう思わない）の5件法に加えて自由記述欄を設け、授業最終回に実施した。

概ね好意的な回答が得られたが、配布資料における改善点が多い。アンケート結果を鵜呑みにせず、引き続きより良い授業内容作成のための参考とする。

データサイエンス・A I（2024年度・24名受講）

設問	評価（回答数）					
	平均	5	4	3	2	1
授業資料は理解に役立つと感じたか	4.6	15	7	2	0	0
学ぶ内容の重要性や必要性が伝わったか	4.5	15	7	2	0	0
授業が扱う分野に興味・関心が高まったか	4.1	11	7	5	0	1
自由記述						
<b>ポジティブな内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数人の先生がいたので質問しやすい環境であった。</li> <li>・授業内容が練習課題となっているので復習になった。</li> <li>・全体説明で分からない点があってもサポートの先生が個別に教えに来てくれ、授業に置いて行かれることがなかった。</li> </ul>						
<b>ネガティブな内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚える内容が多く、短期間では覚えきれなかった。</li> <li>・投影されるスライドの文字が小さく見えにくい時があった。</li> </ul>						

食品法規Ⅱ（2024年度・11名受講）

設問	評価（回答数）					
	平均	5	4	3	2	1
授業資料は理解に役立つと感じたか	4.0	3	4	3	0	0
学ぶ内容の重要性や必要性が伝わったか	4.2	4	4	2	0	0
授業が扱う分野に興味・関心が高まったか	4.2	4	4	2	0	0
自由記述						
<b>ポジティブな内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前と終わりに練習問題を行うこと。</li> </ul>						
<b>ネガティブな内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料の記入欄が小さかった。</li> <li>・分かりづらい内容が多く、確認テストが難しい。</li> </ul>						

## VI. 教育方法の改善計画

### III-4 授業進行について

練習問題に取り組む前に全体説明を丁寧に行っているが、説明を簡略化し練習問題を解き終わった後に解説の時間を別途設ける。予備知識が少ない学生にとってはミスが多くなるかもしれないが、自分で問題に取り組んだ後に解説を受けることで「どこで間違えたのか」「どのような考え方が必要であったのか」など深い理解に繋げることが出来る。また、問題を解く際に試行錯誤する過程で、自分なりのアプローチを考える力を養うことが出来る。

## VII. 今後の目標

### [短期目標]

1. 他の先生の TP を読み、授業参観に参加する。また、自身の授業での実施内容を周知し、授業参観に参加してもらう。
2. 学生の成績や技術に合わせた授業の進行方法を確立する。
3. 授業毎の到達目標を明示し、学習の指針を定める。
4. 作成した TP を学生と共有し、方針を伝えたうえで共に授業を作っていく。

### [長期目標]

1. 定期的に TP の振り返り・更新を行い、自身の教育理念の改善を継続する。
2. 反転学習の導入・推進を行う。現在は復習目的の課題が多くなっているため、反転学習を取り入れ、学習効率の向上を目指す。
3. 学位取得に向け、知識と技術向上に努める。また、その知識を授業や人材育成に還元する。

以上